

第2号様式（第3関係）

第4回豊山町中学校施設整備基本構想会議議事録

1 開催日時 令和3年10月6日（水） 午後3時00分～

2 開催場所 豊山町役場 2階 会議室1

3 出席者

名古屋市立大学芸術工学研究科 教授	鈴木 賢 一	（会長）
愛知工業大学工学部 教授	鈴木 森 晶	（副会長）
中部大学人間力創成総合教育センター 教授	武者 一 弘	
愛知教育大学教育学部 教授	風 岡 治	
社会福祉法人豊山町社会福祉協議会 会長	池 山 和 徳	
豊山中学校 校長	篠 田 弘 男	
豊山町議会 議長	水 野 晃	
豊山中学校PTA 顧問	小 川 晃 永	

事務局

教育長	北 川 昌 宏
教育委員会事務局長	安 藤 憲 司
教育委員会事務局学校教育課長	井 戸 茂 治
教育委員会事務局学校教育課学校教育係長	菊 地 智 行
教育委員会事務局学校教育課学校教育係主任	安 藤 幸 雄
産業建設部参事	大 見 明 弘
産業建設部建設課土木・農政係主事	上 田 卓

阪急コンストラクション・マネジメント株式会社

名古屋事務所 営業部部長兼名古屋事務所副所長	杉 田 昌 彦
東京本店 CM部 チーフマネジャー	佐 藤 学
名古屋事務所 CM部 チーフマネジャー	山 口 友 香 理

三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

政策研究事業本部 名古屋本部 主任研究員	岩 田 雄 三
----------------------	---------

4 欠席者

愛知学泉大学家政学部 教授	前 田 治
---------------	-------

5 傍聴者

坪 井 孝 仁
作 野 桂 子

6 議題

- (1) 第3回構想会議における委員意見について
- (2) 意見聴取について
- (3) 目指すべき中学校のあり方について－意見交換－

7 会議資料

- (資料1)【第3回会議集約】目指すべき姿・整備内容に対する委員の意見
- (資料2)豊山中学校改築に係る意見聴取結果一覧
- (資料3)【第4回会議資料】目指すべき姿・整備内容に対する委員の意見
- (資料4)事業手法について

8 議事内容

(1) 連絡事項等

教育長：本日は、前回に引き続き各委員よりいただいた意見を中心に協議を行いたい。なお、効率的な施設整備のための事業手法について、説明を阪急コンストラクションマネジメント株式会社より行う予定である。
また、先日行った生徒、教職員、保護者からの意見聴取の報告をさせていただく予定である。

(2) 議題

【(1) 第3回構想会議における委員意見について】

事務局：前回までにいただいた意見を項目毎に資料1に集約した。前回欠席された委員もいるため改めて内容を読み上げて説明する。

資料説明 (資料1を参照)

会長：纏めていただいたとは言うものの、まだ羅列状態である。「論をまず当然そうすべき事柄」「ぜひそうしたいけれど本当にできるかという事柄」「きちんと議論しないとまずいのではないかという事柄」が混在しているため、後々整理していきたい。他の委員からは何か意見はあるか。

委員：多くの点については共感できる。ハードとソフトがかみ合っていない事例があるため検討しなくてはいけない。例えば、電子黒板などは導入されている学校は多いが、実際は使われていない場合も多くある。先生や生徒のヒアリングなどを踏まえて検討する必要がある。また、学校の守備範囲や、怪我や事故などがあつた場合のトラブルの線引きはどこまでなのかも検討が必要で、議論しなければならない。音に関しても過敏な方も地域にいる。地域とはコミュニケーションの回路を開いて繋ぐことも考えなければならない。ハードとソフトの組合せが大切である。

会長：ここではハードとして施設整備が軸足ではあるが、教育の内容とセットで考えなければならない。今後学校運営に関する会議が立ち上がると思うが、先生たちの意見を確認する必要があると思う。

委員：前回の3ページ分について、皆様の意見を数えたら105あった。そのうち、設計図を引く前に方向付けが必要な意見は60程あった。これらの中で、立地、教室サイズ、生徒数について方向付けをしなければならないのではないか。第三者の阪急さんや三菱さんから提案を受けたうえで、このアイデアを選別して進めていかないと次のステップに進まないかと思う。ぜひ進め方を検討していただきたい。

会長：図面を引く前で方向付けが必要なものは、次回以降に議論できるように事務局側と相談する。本日は目指すべき姿の全般的な意見を伺いたいと思う。

【(2) 意見聴取について】

事務局：8月26日に生徒及び教職員、9月6日に保護者から意見聴取を行った。意見については、項目別に資料2に纏めた。

資料説明 (資料2を参照)

会長：部屋が狭いという意見が多いように思う。文科省より次世代の学校施設の在り方に関する中間報告が出ている。部屋の広さについて、それらを踏まえて教室、特別教室、職員室のリーズナブルな広さを追求していきたい。

委員：フロアの分断についての補足であるが、現在2年生だけが、1階と2階に学年がまたがっている。学年室や分室については、十分な広さではないが2・3階にある。学年単位で活動することが多いため、そういったスペースの充実は必要である。また、GIGAスクール・ICT化を進めていく上で、情報セキュリティに関する安全性も必要であると思う。

会長：学年の配置は年によって変わるため対応することが難しいが、フレキシブルに対応できると良い。

委員：防災について、今後30年以内に70%の確率で東南海トラフ地震が起こると言われており、地震を見据えた計画としたい。防災教育にも力を入れた、防災にも対応できる中学校も検討したい。

会長：町の防災への観点も検討が必要となる。中学校が何を担うのか、他施設との関連もあるので、どの程度のスペックとするかをいずれ考えなければならない。

【(3) 目指すべき中学校のあり方について―意見交換―】

事務局：資料3について検討していく。本日は前回からの引き続きで、3. 地域コミュニティの拠点形成と4. 安全・安心な施設環境の確保、5. 財政負担を軽減する効率的な施設整備・運営について議論を行う。また5. 財政負

担を軽減する効率的な施設整備・運営についての議論を行う前に事業手法の説明を行う。

3. 地域コミュニティの拠点形成

< 3-1. 学校と地域の連携・協働 >

< 3-2. 地域の生涯学習のための機能整備 >

会長：地域の皆さんが自由に出入りできる施設としている例もある。それは、学校と地域が協力しあうためのひとつの拠点としているということである。学校が地域と協力することでセキュリティ確保にも繋がる。また、屋外プールは地域の中に1つあれば良いという思いで書いている。

委員：拠点形成を行う際に、例えば、高層階にして動線を分離し、フロア毎に生徒が普段使用するエリアと地域開放するエリアで機能を分け、階で分断するスタイルも考えられる。高層階が良いかはまた別の話だと思うが。

また、地域に開かれた生涯学習施設として、町、中学校、小学校の図書館をオンラインで繋ぎ、貸し出しができるようになると利便性が上がり、地域にも開かれて有効活用にもなる。

委員：地域の人達も一緒になって施設設備に携わる方法や、難しいのであれば明確に施設のこの部分や時間で分けをし、管理を誰が行うかを決めていくとよい。

委員：住民が日常的に中学校にいて、子どもとの交流や学びの場としての活動するスペースがあると良い。その上で、学習教育のコアとなるスペースと地域開放スペースを分けて考え、複合化・多機能化を意図した施設としてはどうか。学校教育施設は誰が管理するか、それ以外の部分は地域で管理するかなどを考えていったらよい。

運営や管理についてはBOT方式などを考え、維持管理や運営をどこに任せるのか、学校長に全て委ねるのではなく分担した方がよい。

会長：教育施設としてだけではなく、地域との関連性についても考えた方がよいという意見であった。

委員：資料の内容について補足を行います。1点目、長野県のある中学校では「まちの縁側」というコンセプトで地域交流を行っている。ソフト面が大事であると考えている。

2点目、現在の正門の位置は分かりづらく整理が必要である。朝来てから帰るまでの動線をしっかり整理してほしい。地域開放玄関と生徒の出入口は、フロアを分けるなどして変えて行った方がよいと思う。

3点目、学校の中にボランティア室や展示室などを設置して学校と福祉との連携を増やし、触れ合う機会を創っていきたい。

4点目、学校と他施設をIoT化し、いろんなことが生徒に伝わるように、ニーズが拾えるようにしてほしい。

会長：福祉と教育との接点は重要だと思う。

委員：明確なセキュリティラインについては、「学校専有スペース」「学校と地域の共有スペース」「地域専有スペース」を明確にすれば安全・安心が確保できる。

豊山中学校の記念碑を改めて見直すことも大事なと思う。部活動や社会体育に対応できるサイズの体育館、武道場、プールの確保も大事である。

会長：歴史性は重要なことである。記念碑等は無くならないようにしたい。

委員：学校と地域の見守り体制が必要である。中学校と地域でできる見守りが何かできないか。夕方下校時に地域の方のボランティアなどができるとよい。

委員：地域コミュニティの利用が可能な区域を校内に設けていきたい。中学校は地域住民との連携が不可欠である。防災や地域が育む施設としてのコミュニティ施設としたいが、生徒の安全・安心が1番であるため、セキュリティの区分は必要である。他の中学校の例として、学校と地域の区域をシャッターで区切る、専用の門を作るなどを行っていたが駐車場などは開放されており自由に入出りできてしまうので、豊山中学校ではセキュリティもしっかりしながら、地域を受け入れられるようにしたい。

会長：図書のような施設は、学校単独よりも町の図書と連携することで充実するかと思う。スポーツ施設なども連携することで利用率が高まり有効活用ができると思うが、セキュリティの問題が出る。これらを乗り越えつつ方向を目指すことが一つのベクトルになるかと思う。委員の皆様はどのように感じるか。

委員：開かれた施設とセキュリティの問題は難しいとは思いますが、今回の計画でモデルケースとなるような事をチャレンジするのも良いかと思う。図書館の話だと、生徒用窓口と地域用窓口を分けるなど、工夫次第で出来ると思う。方向性が決まれば考えていきたい。

会長：階層で入口を分ける方法もあるし、平面で分ける方法もある。または時間で分ける方法もある。工夫しながら、中学校ではなく地域の施設というニュアンスが出てくると良い。

委員：図書館やプールは町民にも使ってもらえるようにするのも良いかと思う。時間や曜日で町民も借りることができれば良い。図書館は、学校単位で整備すると図書の充実がしにくいので、オンラインで貸し借りできれば、重複が減り図書の充実ができる。また、児童図書や生徒用図書は、優先的に生徒が借りられるようにすることが必要である。

4. 安全・安心な施設環境の確保

< 4-1. 災害に対応した学校 >

< 4-2. 日常の安全性確保 >

- 会長：災害拠点として位置付けた場合、町の上位計画との整合性が必要である。
教師用コーナーは、分散設置しても使用されていない事例もあるため、建築と運用について検討が必要である。
- 委員：校舎は耐震構造を基本としたほうが良い。免震として10年後に問題が生じる事例がある。耐震構造はコストが抑えられ、効果も大きい。強さを2倍にするには材料費は1割増でよいと言われているため、精査していけば立派なものが出来上がる。
発災時は避難所となることから、動線分離の意識を持ち、災害時に教育活動の妨げにならないようにすることで日常の安全確保にも繋がる。
- 委員：従来よりも教室のスパンを大きくした方が良い。大震災などの際、避難者が押し寄せて授業ができなくなる例もある。避難者ゾーンと教育活動ゾーンを分けていくことが設計の段階で必要である。
- 委員：避難時のプライバシーの確保が重要である。更衣室やシャワー室などの設置、特に障がい者への配慮などが必要。
安心・安全を考えた際に、地域の方が学校にいて抑止力となる考えもある。これからの学校と地域とのあり方を議論すべきではあるが、地域協働活動を前提に考えると、日常的に生徒と住民が同じ空間にいるという考え方にいくのではないかと思う。地域のコミュニティ施設の中に中学校があるような逆転した発想も良いのではないか。
- 会長：最先端の意見で望ましいと思う。実際にどうやっていくかが難しいが参考になる意見である。
- 委員：災害時、災害対策本部は職員室のオープンスペースに作らないと機能しないと思う。机の無いフリースペースも必要である。
- 委員：まず耐震性が必要である。日常的には、雨漏りに強い校舎が良い。緊急避難所として充実した施設としてほしい。安全上を考慮すると広い階段や廊下の設置も必要。防犯カメラはプライバシー確保を十分配慮した上の設置であれば致し方ない。感染症対策としては、現状の手洗い場は手狭であるため、十分な広さがあるとよい。また、保健室内の待機スペースにアクリルパネルなどの設置が必要。
- 委員：防犯の強化対策として、地域の人が多く訪れるのであれば、大人から安全を示す必要があり、一目でわかるデザインの職員証を着けるなどが必要。
日常の事故防止として、施設開放をするのであれば、現状の駐車場では校舎裏にあり危険である。動線上での事故防止を考えると建物から離れた場所に駐車場があると良い。
- 会長：駐車場があまり必要でなかった時代に学校は作られており、歩車分離のできていない所が多い。
- 委員：防災設備器具が設置されていても、使い方が分からないものも多いので、分かりやすいパネルを設置してほしい。防犯カメラやパトロールを強化す

る必要がある。また、風の流れでは、立地を考えて換気できるように窓を計画すべき。

委員：安全性の確保については、地域との関わり方で変わるかと思う。長野県の学校では、門は常時開いていたり、塀がなくどこからでも入れる形となっていたりする。地域とのつながりを大事にしていくことが必要。

震災時には、ストレスで徘徊したり、トイレを探しに教室の方に入っていたりという問題があったと聞く。震災時も教育を続けて行くためには誘導や切り分けが必要になる。保健室について、最近では保健室を心と体の2か所設けたり、岐阜県の事例では男女別の先生で分けていたりする学校もある。スタッフが常時いてくれるとなお良いと思う。

会長：中学校でのメンタルのことも対応が必要である。保健室登校のための出入口を設けるなどの対応も必要。養護の先生に聞く機会があると良い。

5. 財政負担を軽減する効率的な施設整備・運営

< 5-1. 計画的な整備、敷地利用の効率化 >

< 5-2. 維持管理に配慮した施設計画 >

事務局：議題に入る前に事業手法について説明します。

資料説明 (資料4参照)

会長：専門用語も多く理解しづらい点もあったと思うが、自治体で全て行う方法から民間にゆだねる方法までである。事業手法は豊山町が決めることと思うが、どの手法をとるかで性能が違うという説明であった。

議題に入りまして私から説明します。工事期間中も学校運営が必要で安全確保も考えると、その点では移転が望ましい。同時に跡地の有効活用についてもセットで考えた方が良い。現地建替えの場合は、仮設校舎を建てなければ条件が厳しくなる。

将来生徒が減り、教室が空いて他に転用が必要となった場合には、RC造よりも木造や鉄骨造の方が対応しやすい。また、設計段階から学校運営の方も参加した方が良い。

委員：20年スパン位で大規模改修などのメンテナンス費を考慮した計画が必要。潤沢にお金があるわけではないため、ネーミングライツやクラウドファンディングなど、地域でお金を集める方法もある。町の資産であるため、町で継続した体制を整える必要がある。

委員：子どもの数や定住人口を考えると、中学校のクラスサイズを小さくしていく可能性もある。小学校や保育園と連携や交流していくことも大事である。初めからそれらを視野に入れて計画しておくことも良い。

委員：建物寿命60年で建てていくが、今の教育方針が今後も同じとは限らないため、フレキシブルに対応できる作りでないといけない。平成23年に教育活動円滑化に係る学校施設の在り方に関して文科省が答申を出している。

10年経った今、合致していない部分も多い。今GIGAスクールなどあるが、10年後は設置型の物を採用した場合に使えなくなる可能性も考えられる。今後20年後などにメンテナンスや改築などをやりやすくする観点が必要。

会長：流行に乗るとすぐ古くなる場合もある。

委員：安全・安心の配慮はもとより、余裕スペースの確保が必要。また、柔軟に対応ができ、メンテナンス性の良い施設が良い。

委員：費用について、維持管理の負担が少ないものがよい。プールについても、使用期間の割には維持管理費が高いため、町内で統合の検討をしても良い。建築・移転について、対象となる生徒に負担をさせない流れで進めていただきたい。

委員：財政負担について、移転又は現地建替で補助金に差はあるか調査していただきたい。

会長：メンテナンスを行いながら長寿命化を図るモデル校となってほしい。

委員：アンケート調査はいつ行う予定か。

教育長：住民に対して何らかの形でアンケートを行うべきと考えている。時期、内容については検討中。

委員：第7回の会議に最終報告書を示していただけるとよい。

教育長：最終まとめに反映させるためのアンケートを行うため、間に合うようにどのタイミングでどのように行うか適切に判断していきたい。

委員：投資額がいくらになるか、現在地での建て替えか移転か、教室のサイズについて、専門の方に方向付けをしてもらわなければここから先の議論が見えない。委員の皆さんの意見を確認した方がよいと思うがどうか。

会長：最終的にどういう報告書を出すか見据えながら進める必要がある。次回以降の手順について事務局で検討していると思う。次回以降の手順について見えていないため、委員の先生も何について議論したらよいか不安に思われている。

委員：現在地での新築か移転か、生徒の数、教室の広さについて、阪急さんのような専門家の方から意見を貰わないと進まないと思うがどうか。

教育長：本日までで皆さんからいただいた意見を基に議論していただいた。次回は、町としての目指すべき姿を示していきたい。生徒数や財源的な問題を踏まえ、事務的に皆様からの意見を集約する。阪急も事務局の一員のため、専門的な知見をいただきながらまとめていく。また、建設地については、総合的に考えて判断していきたい。

会長：行政の考え方がしっかりしていないといけないため、骨子を示していただきたいうえで、この会議に諮ってほしい。

9 その他

次回の構想会議日程

11月中旬予定

上記のとおり第4回豊山町中学校施設整備基本構想会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

令和3年10月28日

会 長 鈴 木 賢 一

署名人 小 川 晃 永